



「オー・ブラザー！」

“O BROTHER, WHERE ART THOU?” ●●● 第8回

“Son, you're gonna go far.”

「お前らを出世させてやる」

コーエン兄弟の最新作は、神話的な冒険物語に'30年代のアメリカの史実や音楽の楽しさを織り込んだ欲張りな映画。全体に南部なまりが強いなか、1人の例外が豊富なボキャブラリーで巧みな話術を披露している。

文=中野香織



ギャガ・コミュニケーションズ配給。3人の脱獄囚の愛と運命を賭けた物語は、全米でコーエン兄弟映画史上最大のヒットを記録。10月末よりシネセゾン渋谷、銀座テアトルシネマほかでロードショー

コーエン兄弟の映画『オー・ブラザー！』が1930年代アメリカ版『オデュッセイア』と知って、10年ほど前に読んでいた本を思い出しました。神話学者ジョセフ・キャンベルの『千の顔をもつ英雄(The Hero with a Thousand Faces)』という本です。

古今東西の神話や文学の主人公が「冒険」の過程でいかなる経験をし、それがどんな意味をもつのかを、膨大な具体例をひきながら分析した本です。あらゆる冒険物語の元祖にして完璧な原型こそ、最古の世界文学のひとつ、ホメロスの『オデュッセイア』。オデュッセウスの旅のエピソードは、当然、キャンベルの本でもさまざまな意味を与えられていました。

ちなみに、キャンベルによれば、古今東西の主人公たちの旅には、文化を全く異にするにもかかわらず、ほぼ共通するロードマップが存在します。およそ12段階に分けられるその「旅程」とは、次のようなもの。

1. 平凡な世界にいた主人公が、2. 冒険へ招致されるが、3. それをいったんは拒否する。
4. しかし賢明な師と出会い、5. 最初の敷居を超え、あともどりできない冒険の旅に出る。
6. 途中、幾多の試練を経て仲間と出会い敵と闘い、7. 洞窟の内奥へ接近し、8. もっとも厳しい試練を経て、9. 報酬を得る。
10. 喜びもつかの間、いったん後退し、時に主人公は死にかける。
11. 瀕死の状態から復活し、12. 「宝物」を得て帰還する。

この過程を見て、『インディ・ジョーンズ』や『スター・ウォーズ』をイメージした方もいらっしゃるでしょう。それもそのはず、ルーカスやスピルバーグはキャンベルの熱狂的な読者でありサポーターでした。

さて、前置きが長くなりました。キャンベルのロードマップからさほど大きく逸脱しない神話的な冒険物語に、1930年代アメリカの史実をひねって織り込み、無条件の音楽の楽しさを添

えた欲張りな映画が、『オー・ブラザー！』なのであります。

この映画の英語は南部なまりが強いうえに、主人公たちは脱走してきた囚人という設定で、必ずしも文法的に正確な英語を話すわけではありません。が、1人だけ例外があります。ジョージ・クルーニーが扮するユリシーズ・エヴェレット・マクギル。「ニセ弁護士をやってつかまった」というだけあって、ボキャブラリーが豊富なかたに、1つの事実を両面から解釈する「1人ディベート」的談話術や、聞き手をケムに巻いて言いくるめてしまう話術が実に巧みなのです。

たとえば、旅の冒頭からあやしい理屈で相棒をケムに巻きまわす。3人のうち誰がリーダーか、の論争に決着をつけるセリフが、これ。

I figure it should be the one with the capacity for abstract thought.

(抽象思考ができる者がリーダーだ)

abstract thought (抽象思考)? 具体的に説明してくれ、といわんばかりの顔で思考停止状態になった相棒たちを尻目に、クルーニーはリーダーになってしまうわけです。

かと思えば、他人の家から黙って持ちだしてきたモノを見とがめられたときには、盗みではないと詭弁(**abstract thought?**)を弄したあげく、仲間から「理屈に合わねえ」と非難されると、しれっとこう言ってしまうのです。

It's a fool that looks for logic in the chambers of the human heart.

(人間に論理性なんか求めるな)

単なる**heart** (心)ではなく、解剖学的に**chambers of the human heart** (心臓の四つの小部屋)と言うあたりが、うまい。解剖学的に探せばたしかに**logic** などどこにも見え

ないので、このセリフに誰がまともに反駁できましょうか。「抽象思考ができる」とことと「論理性がない(**illogical**)」ことが共存してしまうものすごいキャラクター。まあ、世間ではこんな人間をただのお調子者と呼ぶのですが。

このお調子者を上回る役者が、保守派の州知事パピー (チャールズ・ダーニング) です。改革派に圧されていた選挙戦を、ちゃっかりこのトリオ+1人の黒人ギタリストによる「ずぶ濡れボーイズ(**Soggy Bottom Boys**)」の人気にあやかって挽回します。**"Ladies and Gentlemen!"** (紳士淑女の皆さん)と言うべきところを**"Ladies and Gentlemen!"**なんて初歩的な文法ミスをあえて交えて言うあたりに、大衆への媚びの計算が見えます。ブッシュ大統領が**Are our children learning** (子供たちは学んでいるのだろうか?) とするべきところを**Is our children learning?** と文法を間違えて言ったりして大衆に優越感を感じさせるやり方と似ているでしょうか。ブッシュ大統領の場合は計算ではなく天然の可能性が高いですが。

この知事がにやりと笑ってクルーニーに言うセリフはなかなかスタイリッシュです。

Son, you're gonna go far.

(お前らを出世させてやる)

'go far' という熟語には、字幕に訳し出された意味のほかに「大いに役立つ」「使いがある」という意味もあります。「お前らを出世させてやる」というその心は「お前らを大いにこきつかってやる」ということで、狸おやじならではのコワイ決めセリフでしょう。

とはいえ、そんなセリフの妙より断然味わい深いのが、「ずぶ濡れボーイズ」の歌。論理を超越した(**allogical**) 魅力で、**chambers of the heart** を驚嘆みにされるでしょう。